基礎分野

(社会学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019年度シラバス

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	2	必要時間数	30
担当教員	太田 匡洋		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	あらゆる職業的行為は、近代社会という特定の文脈のもとで成立するものである。したがって、医療の営みもまた、社会的な枠組みに規定されたものである以上、近代社会に対する理解が、よりよい医療の実現にとって重要な条件となる。そこで本授業では、社会学の物の考え方を簡単に概観した後、社会学の各トピックを横断的に扱うことで、社会学の問題意識や考え方を、身の回りの事象を捉えて理解する参考とし、職業人としての自らの判断に役立てられるようになることを目指す。		
教科書	教科書は指定しない		

具体的な到達目標	
目標1	社会学で用いられる諸概念の内容を説明することができる。
目標2	社会学の諸概念をもちいて、身近な現象を分析して説明することができる。
目標3	社会学の諸概念をもちいて、身近な現象に対する自身の判断を説明することができる。
目標4	
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70		
平常点	15	算出方法 毎回のミニペーパー提出による	算出方法
出席点	15	算出方法 1回の欠席ごとに1点減点する	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	8 / 29		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容

回数	内容	備考
1	社会学の前提(1) —— 「社会」とはなにか	
2	社会学の前提(2) —— 「行為」とはなにか	
3	社会学の前提(3) —— 「社会学」の役割とは何か	
4	家族の社会学 —— 親密圏と公共圏	
5	教育の社会学 —— 「学校化」の問題	
6	職業・労働の社会学 —— 階級・労働・マクドナルト化	
7	ジェンダーの社会学 —— 社会的性別・性的役割	
8	民族・エスニシティの社会学 —— エスニシティ・人種・移民	
9	メディアの社会学 —— 情報化社会の問題	
10	犯罪の社会学 —— 犯罪・逸脱・ラベリング理論	
11	都市の社会学 —— ゲマインシャフトとゲゼルシャフト	
12	グローバリゼーションの社会学 —— ナショナリズム・想像の共同体	
13	宗教の社会学 —— 聖と俗・市民宗教	
14	医療の社会学 —— 病人役割・医療化	
15	まとめ —— 「社会学」の役割をふりかえる	

その他の事項

授業プリントを毎回配布する予定です。

基礎分野

(倫理学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019年度シラバス

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	2	必要時間数	30
担当教員	太田 匡洋		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	人間のあらゆる行為は、人と人との関係のもとで初めて成立している。とりわけ、医療の営みにおいては、「人と人との関係」という契機が、重要な役割を果たしている。それゆえ、倫理学についてその知見を有することは、よりよい医療とは何かを理解し実践するための重要な条件となる。そこで本授業では、倫理学の考え方（理論倫理学）を横断的に学ぶとともに、日常生活とも関係の深い応用倫理学のトピックを概観することで、倫理学の問題意識や考え方を、身の回りの事象を理解するための材料とし、職業人としての自らの判断や行為に役立てられるようになることを目指す。		
教科書	教科書は指定しない		

具体的な到達目標	
目標1	倫理学で用いられる考え方および諸概念の内容を説明することができる。
目標2	倫理学の考え方や諸概念をもちいて、身近な出来事を分析して説明することができる。
目標3	倫理学の考え方や諸概念をもちいて、身近な出来事に対する自身の価値判断を説明することができる。
目標4	
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70		
平常点	15	算出方法 毎回のミニペーパー提出による	算出方法
出席点	15	算出方法 1回の欠席ごとに1点減点する	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	12 / 19		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容

回数	内容	備考
1	倫理学とは何か —— なぜ倫理学が必要なのか	
2	相対主義と主観主義の問題 —— 「道徳は人それぞれ」なのか	
3	利己主義の問題 —— 「人間は生まれつき利己的」なのか	
4	倫理学理論①：功利主義 —— 「幸福の最大化」はベストな選択なのか	
5	倫理学理論②：義務論 —— 「正義はなされよ、たとえ世界が滅ぼうとも」	
6	倫理学理論③：徳倫理学 —— 「道徳的な性格」とはなにか	
7	道徳心理学 —— 道徳と発達段階	
8	ケアの倫理 —— 寄り添う関係	
9	配分的正義の問題 —— 有限な資源をいかにして配分するのか	
10	環境倫理学 —— 自然と人の関係	
11	動物倫理学 —— 肉食はなぜ悪なのか	
12	生命倫理学 —— 「健康のためなら死んでもいい」	
13	宗教倫理学 —— 「私が何をしたというのか」	
14	悪の問題 —— なぜタギーが死ななければならないのか	
15	倫理学の役割はなにか？	

その他の事項

授業プリントを毎回配布する予定です。

基礎分野

(生物学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校

2019年度シラバス

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	2	必要時間数	30
担当教員	益田 敦子		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>生物学とは、生物がどのようなしくみで生命活動を営んでいるかを探求する学問であるが、本講義では、主に生物の体がどのような物質でできているか、また生物の基本単位である細胞の各細胞小器官の働きを学び、さらに原核生物、真核生物、ウイルスの違いについて学ぶことにより生物の基礎知識を身につける。これらの基礎知識は医療系学生が主に生理学、解剖学を学ぶ際の理解の助けとなることが期待される。</p>		
教科書	教科書は指定しない		

具体的な到達目標	
目標1	生物の特徴について説明できる。
目標2	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）それぞれの構造や性質について説明できる。
目標3	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）、それぞれの生体内における働きを説明できる。
目標4	細胞膜の構造について説明できる。
目標5	細胞膜における物質輸送について説明できる。
目標6	細胞小器官について、それぞれの形態の特徴と機能を説明できる。
目標7	原核生物と真核生物の違いを説明できる。
目標8	細菌の構造について説明できる。
目標9	ウイルスの構造と特徴について説明できる。
目標10	

評価と試験			
	前 期		後 期
試験成績	85%		
平常点	15%	算出方法	授業態度により判定
出席点		算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	7 / 13		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☐	無 ☒
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンス、生物の特徴、トピック（iPS細胞の臨床応用について）	
2	生体を構成する物質全体について、水の性質と生体内における働き	
3	タンパク質の構造と性質	
4	タンパク質の生体内における働き	
5	糖質（単糖類、二糖類、多糖類）の構造と性質	
6	糖質の生体内における働き、脂質（単純脂質）の構造と性質	
7	脂質（複合脂質、誘導脂質）の構造と性質	
8	脂質の生体内における働き、無機質の生体内における働き	
9	細胞の発見と細胞説、細胞膜の構造と特徴	
10	細胞膜における物質輸送の方法	
11	核、リボソーム、粗面小胞体の構造と働き	
12	滑面小胞体、ゴルジ装置の構造と働き、細胞内における物質の流れ	
13	リソソーム、ミトコンドリア、中心体、葉緑体の構造と働き、原核生物と真核生物	
14	試験解説、細菌の構造、ラン藻の構造	
15	ウイルスの構造と特徴、細胞の進化、ウイルスに関するトピック	

その他の事項

- ・板書したものは各自ノートをとること
- ・生物学は専門科目ではないが、生理学、解剖学の理解の助けになるので、しっかり勉強して下さい。
- ・配布資料は毎回持ってくることを忘れずに行ってください。

推薦図書 絵でわかる細胞の世界 黒谷明美著 講談社サイエンティフィク 2001年発行
 医学を学ぶための生物学 谷口直之、米田悦啓編集 南江堂 2004年改訂第2版発行

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	72
担当教員	下宮 啓佑		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	本授業においては医学の基礎となる解剖学のうち、前述の「骨・筋・関節」といった運動器について重点的に学び、国家試験に対応できる学力はもちろんのこと、他科目及び臨床・実技授業においても土台となる運動器の知識を修得する。		
教科書	東洋療法学校協会編、解剖学 第2版、医歯薬出版株式会社、2006		

具体的な到達目標	
目標1	骨の構造と特徴について説明することができる。
目標2	筋の構造、起始・停止・作用・支配神経について説明することができる。
目標3	関節の構造と働きについて説明がすることができる。
目標4	
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70%		
平常点	30%	算出方法 小テスト (30点) ×1回	算出方法
出席点		算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	9/17		

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の実務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容		
回数	内容	備考
1	シラバス及び科目の概要について説明を受ける。	
2	人体の区分・切断面及びそれらを示す際の解剖学的用語について学ぶ。	
3	骨の形状及び連結、関節の種類について学ぶ。	
4	骨組織、血液とリンパの構造・特徴について学ぶ。	
5	骨の形状についての用語・骨の部分名称・連結について学ぶ。	
6	筋組織の構造、特徴について学ぶ。	
7	脊柱の構成や機能、椎骨の基本形態・連結について学ぶ。	
8	各部の椎骨（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、尾骨）の構造・特徴について学ぶ。	
9	胸骨、鎖骨の構造・特徴について学ぶ。 胸郭の全体像及び運動について学ぶ。	
10	上肢帯の骨（鎖骨、肩甲骨）、自由上肢の骨（上腕骨）の構造、特徴について学ぶ。	
11	自由上肢の骨（橈骨、尺骨、手の骨）の構造・特徴について学ぶ。	
12	下肢帯の骨（寛骨）、自由下肢の骨（大腿骨、膝蓋骨）の構造・特徴について学ぶ。	
13	自由下肢の骨（脛骨、腓骨、足の骨）の構造・特徴について学ぶ。	
14	脳頭蓋を構成する骨（前頭骨、頭頂骨、後頭骨、側頭骨、蝶形骨、篩骨）の構造・特徴について学ぶ。	
15	顔面頭蓋を構成する骨（鼻骨、涙骨、頬骨、上顎骨、下顎骨、舌骨）の構造・特徴について学ぶ。	
16	上肢の関節（胸鎖関節、肩鎖関節、肩関節）の構造と働きについて学ぶ。	
17	上肢の関節（肘関節、手関節、手内部・指の関節）の構造と働きについて学ぶ。	
18	下肢の関節（股関節、膝関節）の構造と働きについて学ぶ。	
19	下肢の関節（足関節、足内部・趾の関節）の構造と働きについて学ぶ。	
20	小テスト（予定）	
21	筋の構造・神経・作用と運動について学ぶ。	
22	上肢帯の筋（棘上筋、棘下筋、小円筋、三角筋、肩甲下筋、大円筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
23	上腕の筋（烏口腕筋、上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
24	前腕の筋（円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、浅指屈筋、尺側手根屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋、腕橈骨筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
25	前腕の筋（回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋）、手内筋（短掌筋、小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋、虫様筋、掌側骨間筋、背側骨間筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
26	下肢帯の筋（腸腰筋、大・中・殿筋、大腿筋膜張筋、梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	

- 27 大腿の筋（縫工筋、大腿四頭筋、膝関節筋、恥骨筋、長内転筋、短内転筋、大内転筋、薄筋、外閉鎖筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
- 28 大腿の筋（大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋）、下腿の筋（前脛骨筋、長母趾伸筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長腓骨筋、短腓骨筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
- 29 下腿の筋（下腿三頭筋、足底筋、膝窩筋、後脛骨筋、長趾屈筋、長母趾屈筋）、足内筋（短母趾伸筋、短趾伸筋、母趾外転筋、短母趾屈筋、母指内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底側骨間筋、背側骨間筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
- 30 胸筋（大胸筋、小胸筋、鎖骨下筋、前鋸筋、外肋間筋、内肋間筋、最内肋間筋、肋下筋、胸横筋、肋骨拳筋、横隔膜）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
- 31 腹筋（腹直筋、錐体筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋、腰方形筋、）、会陰筋の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
- 32 背筋（僧帽筋、広背筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、上後鋸筋、下後拳筋、板状筋、脊柱起立筋、横突棘筋、小後頭直筋、大後頭直筋、上頭斜筋、下頭斜筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
- 33 顔面部の筋（前頭筋・眼輪筋・鼻筋・頬筋・口輪筋・広頸筋・咀嚼筋など）の概要について学ぶ。
- 34 眼窩部、鼻部、顎下三角、頸動脈三角、筋三角、後頸三角について、その構成や通過物、周囲の器官等を学ぶ。
- 35 頸部の筋（広頸筋、胸鎖乳突筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群、斜角筋、椎前筋、項部の筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
- 36 筋裂孔、血管裂孔、大腿三角、内転筋管、大・小坐骨孔、膝窩、下腿の筋区画について、その構成や通過物、周囲の器官等を学ぶ。

その他の事項

--

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	7 2	実施時間数	7 2
担当教員	奥村 清和				
授業形態	講 義	教 室	基礎医学実習室		
授業目的	基礎医学である生理学を学習し習得することにより、他の科目や臨床への応用が期待できる。				
教科書	東洋療法学校協会編、生理学 第3版、医歯薬出版株式会社、2014年				

具体的な到達目標	
目標1	人体各部の機能を習得する
目標2	習得した各系統をつなぎ合わせてより理解を深める
目標3	他の科目や臨床に応用できるようにする

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	9 / 3	2 / 1 8	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容		
回数	内容	備考
1	第1章 生理学の基礎、整理機能、細胞膜	
2	細胞質、核	
3	物質代謝、体液	
4	体液、物質移動	
5	物質移動、第2章 循環、赤血球	
6	血球、血漿	
7	止血、血液型	
8	循環の概要、心臓	
9	心筋の特性	
10	心電図、血管の構造と働き	
11	血圧、循環調節	
12	循環調節	
13	特殊な部位の循環、第3章 呼吸、呼吸器系の構造と機能	
14	換気とガス交換	
15	呼吸運動とその調節	
16	呼吸の反射性調節	
17	呼吸の異常、第4章 消化と吸収、消化器系の構造と機能	
18	前期末試験 答え合わせと解説	
19	消化管の運動	
20	消化液	
21	消化液、消化管ホルモン	
22	吸収	
23	肝臓の働き、摂食の調節	
24	第6章 体温、体温調節、産熱	
25	産熱、放熱	
26	発汗とその調節、体温調節の障害	
27	第7章 排泄、腎臓の働き	
28	尿生成	
29	尿生成	
30	腎臓と体液の調節	
31	蓄尿と排尿	
32	復習	
33	復習	
34	復習	

35 復習

36 後期末試験 答え合わせと解説

その他の事項

所定の教科書を使用してその章の順にしたがって授業を進めていきます。生徒のみなさんに教科書を読んでもらってそれに対して説明、解釈を加えていきます。また、必要に応じて自作のスライドをみてもらいながらの説明もあります。

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	72
担当教員	森 一也		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>本科目では人間が生命活動を行う上でのシステムを学習する生理学のうち、「代謝・神経・内分泌・生殖」の項目を重点的に学習する。</p> <p>国家試験に対応できる学力はもちろんのこと、他科目や臨床現場で病態等を自身で考えることができる礎を築けるよう知識を修得する。</p>		
教科書	東洋療法学校協会編、生理学 第3版、医歯薬出版株式会社、2014年		

具体的な到達目標	
目標1	各栄養素の概要および代謝の反応経路について説明することができる。
目標2	神経線維の興奮伝導の仕組みについて、構造の差やイオンバランスの変化を交えて説明することができる。
目標3	神経線維の興奮伝導の特徴的な仕組みを説明することができる。
目標4	シナプス伝達の特徴的な仕組みを説明することができる。
目標5	脊髄の構造を説明できるとともに、脊髄内情報伝導路について説明することができる。
目標6	脳の種類とそれらの機能について、説明することができる。
目標7	ホルモンの分泌調節について、階層的支配やフィードバック機構を交えて説明することができる。
目標8	各部位から分泌されるホルモンとその働きについて説明することができる。
目標9	精子および卵子の形成の方法と関与するホルモンについて説明することができる。
目標10	女性の性周期について構造的変化とそれらに関与するホルモンを交えて説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	9 / 7	2 / 10	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンス 三大栄養素と代謝（エネルギー代謝も含む）の概要について学習する。	
2	代謝（エネルギー代謝も含む）の各論について学習する。 糖質の種類について学習する。	
3	糖質の代謝反応経路について学習する。 脂質の種類について学習する。	
4	脂質の働きについて学習する。 脂質の代謝反応経路について学習する。	
5	タンパク質の種類と働きについて学習する。	
6	タンパク質の代謝経路について学習する。 ビタミンの概要および種類について学習する。	
7	無機質の概要について学習する。 過去の国家試験問題を含めた関連問題を解き、代謝を総合的かつ包括的に学習する。	
8	神経の総論とニューロンの構造について学習する。	
9	ニューロンを支持する細胞・軸索輸送・変性と再生について学習する。	
10	神経の興奮伝導・伝達の違いについて学習する。 細胞内外のイオンバランスについて学習する。 神経の静止電位・活動電位について学習する。	
11	神経の興奮伝導（特徴・跳躍伝導・伝導速度）について学習する。	
12	神経線維の分類について学習する。 興奮伝達およびシナプスの構造と働きについて学習する。	
13	シナプス伝達の特徴について学習する。	
14	神経伝達物質およびそのレセプターの種類と反応方法について学習する。	
15	中枢神経系の分類とその機能について総論的に学習する。	
16	反射の意義・機能について学習する。 脊髄の構造とベルマジャンディの法則について学習する。	
17	脊髄内伝導路の種類とその経路について学習する。 脳幹の種類とその機能について学習する。	
18	視床と視床下部の構造と機能について学習する。	
19	大脳に含まれる種類と機能について学習する。	
20	大脳新皮質の存在意義、種類および機能について学習する。	
21	脳波の種類を学習するとともに、脳波の計測意義について学習する。 脳脊髄液の存在意義とその流れについて学習する。	
22	末梢神経の分類について学習する。 脳神経の種類と機能について学習する。（脳神経の詳細は2年次に行います）	

- 23 自律神経系の概要について学習し、それらの解剖学的な構造を学習する。
- 24 自律神経調節の特徴や、それらに係る伝導物質やレセプターの種類を学習する。
- 25 自律神経の反射について学習する。
- 26 過去の国家試験問題を含めた関連問題を解き、神経系を総合的かつ包括的に学習する。
- 27 内分泌の特徴（化学的性質、作用機序、階層的支配、フィードバック機構）を学習する。
- 28 視床下部および下垂体から分泌されるホルモン種とその機能について学習する。
- 29 甲状腺および副甲状腺から分泌されるホルモン種とその機能について学習する。
- 30 膵臓および副腎髄質から分泌されるホルモン種とその機能について学習する。
- 31 副腎皮質および精巣から分泌されるホルモン種とその機能について学習する。
- 32 卵巣およびその他から分泌されるホルモン種とその機能について学習する。
- 33 男性生殖器および女性生殖器の構造と性差の特徴を学習する。
- 34 女性の性周期について学習する。
妊娠と出産について、受精から分娩までを経時的に学習する。
- 35 成長の過程を経時的変化の観点から学習する。
各部位や各臓器の成長を学習する。
加齢に伴う生理的変化について学習する。
- 36 過去の国家試験問題を含めた関連問題を解き、内分泌系と生殖について総合的かつ包括的に学習する。

その他の事項

さらなる学習への理解を深めたい方は、「標準生理学 第8版 医学書院 2014年」を参考とすることをお勧めします。

授業概要			
学 科	第2 鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	4 単位	必要時間数	80 時間
担当教員	高橋佑輔		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>経絡経穴は臨床において、体内の情報を映し出すものである。治療家は、それらの情報を触覚や視覚を通じて、体内の情報を把握する。また、経絡経穴を刺激することにより、体内に流れる気や穴を調節し、バランスを整えることができる。</p> <p>十四経脈と、各経脈に所属する経穴とその部位を理解することは、各経穴下にある体内の臓器の位置や筋肉・動脈・神経の位置を把握することに繋がる。つまり、これらを学習することは、安全で効果的な治療を行うために必要不可欠である。そのため、本授業では経絡経穴の概念と、経穴部位に関わる筋肉・動脈・神経の内容を学習する。</p>		
教科書	教科書執筆小委員会著、新版 経絡経穴概論（第2版）、医道の日本社、2013		

具体的な到達目標	
目標 1	正経十二経脈の流れる方向性を理解する。
目標 2	奇経八脈の流れる方向性を理解する。
目標 3	各経脈に所属する経穴名、位置、要穴を理解する。
目標 4	国家試験に出題される内容に対応することができる。
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	80%		80%
平常点	20%	算出方法	その他の事項に記載
出席点	0%	算出方法	
その他		算出方法	
試験日	9/13		2/15

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の実務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション、シラバス配布と説明、経絡の概要 経絡・経穴が誕生するまでの話から、経絡経穴というものの概念を学ぶ	
2	経穴の概要 腧穴、経穴とは何かを知り、経穴の部位を決定するための骨度法・同心寸法を学ぶ。 また、鍼や灸が禁止されている部位を知る。	
3	督脈Ⅰ（督脈の流注、所属経穴名・経穴部位を学ぶ）	督脈の復習
4	督脈Ⅱ（督脈の流注、所属経穴名・経穴部位を学ぶ）	督脈の復習
5	督脈小テスト、任脈Ⅰ（任脈の流注、所属経穴名・経穴部位を学ぶ）	任脈の復習
6	任脈Ⅱ（任脈の流注、所属経穴名・経穴部位を学ぶ）	任脈の復習
7	任脈小テスト、臓腑・経絡の概要 （正経十二経脈を学ぶにあたり、臓腑の概念を学ぶ） （正経十二経脈の流注、五要穴・五行穴を学ぶ）	臓腑、要穴、五行穴の復習
8	肺経、大腸経Ⅰ（肺経、大腸経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	肺、大腸経の復習
9	肺経小テスト、大腸経Ⅱ（大腸経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	大腸経の復習
10	大腸経小テスト、胃経Ⅰ（胃経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胃経の復習
11	胃経Ⅱ（胃経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胃経の復習
12	胃経Ⅲ（胃経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胃経の復習
13	胃経小テスト、脾経Ⅰ（脾経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	脾経の復習
14	脾経Ⅱ（脾経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	脾経の復習
15	脾経小テスト、心経（心経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	心経の復習
16	心経小テスト、小腸経Ⅰ（小腸経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	心、小腸経の復習
17	小腸経Ⅱ（小腸経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）、試験前の総復習をする	前期試験範囲の復習
18	前期試験返却（前期試験の解説、復習をする）	前期試験範囲の復習
19	小腸経小テスト、膀胱系Ⅰ（膀胱系の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	膀胱経の復習
20	膀胱系Ⅱ（膀胱系の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	膀胱系の復習
21	膀胱系Ⅲ（膀胱系の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	膀胱系の復習
22	膀胱系（前半）小テスト 膀胱系Ⅳ（膀胱系の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	膀胱系の復習
23	膀胱系Ⅴ（膀胱系の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	膀胱系の復習
24	膀胱系（後半）小テスト、腎経Ⅰ（腎経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	膀胱系の復習
25	腎経Ⅱ（腎経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	腎経の復習
26	腎経小テスト、心包経、三焦経Ⅰ（心包経、三焦経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	心包・三焦経の復習
27	三焦経Ⅱ（三焦経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	三焦経の復習
28	心包経小テスト、胆経Ⅰ（胆経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胆経の復習
29	三焦経小テスト、胆経Ⅱ（胆経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胆経の復習

30	胆経（前半）小テスト、胆経Ⅲ（胆経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胆経の復習
31	肝経（肝経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	肝経の復習
32	胆経（後半）小テスト、正経十二経脈のまとめⅠ	正経十二経脈の復習
33	肝経小テスト、正経十二経脈のまとめⅡ	正経十二経脈の復習
34	奇形八脈（奇形八脈の経穴名・経穴部位を学ぶ）	奇形八脈の復習
35	寄穴・新穴Ⅰ（寄穴・新穴の経穴名・経穴部位について学ぶ）	寄穴・新穴の復習
36	寄穴・新穴Ⅱ（寄穴・新穴の経穴名・経穴部位について学ぶ）	寄穴・新穴の復習
37	経絡経穴の現代的研究（経絡現象・現代科学的研究）	現代的研究の復習
38	国家試験過去問題（国家試験の過去問題を解いてみる）	国家試験問題の復習
39	後期試験の返却（後期試験の解説、復習をする）	後期試験範囲の復習
40	1年間の復習（前期・後期で学んだことを復習をする）	1年間の復習

その他の事項

平常点は各経脈終了時に行う小テストの平均から算出したものを割り当てます。

経絡経穴概論では、読み方や書き方が難しい用語が多く出てきます。

小テストもあるので、毎日少しずつでも時間を作って覚えていってください。

わからないことがあれば、その都度質問してください。

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	4	必要時間数	80時間
担当教員	棟居 清峰		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	鍼灸は東洋医学の一翼を担う。そのため鍼灸の知識・技術を修得するためには東洋医学の基礎理論を理解することが必要である。そこで1年次では東洋医学的な自然界の物の見方、および臨床で必要となる身体の生理・病理、東洋医学的診察について基本的な項目を学習する。		
教科書	新版『東洋医学概論』（東洋療法学校協会編）医道の日本社		

具体的な到達目標	
目標1	東洋医学的な生体物質について説明できる。
目標2	東洋医学的な身体の仕組みについて説明できる。
目標3	陰陽学説・五行学説について説明できる。
目標4	経絡について説明できる。
目標5	東洋医学的な病の原因・病の発生のメカニズムを説明できる。
目標6	臓腑の病証を説明できる。
目標7	経脈の病証を説明できる。
目標8	四診の意義、方法を説明できる。
目標9	四診から基本的な病証の判別ができる。
目標10	東洋医学的な身体観を説明できる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	80%	80%	
平常点	0% <small>算出方法</small>	0% <small>算出方法</small>	
出席点	0% <small>算出方法</small>	0% <small>算出方法</small>	
その他	20% <small>算出方法</small>	小テストの合計を20%分に換算する	<small>算出方法</small> 小テストの合計を20%分に換算する
試験日	9月11日	2月19日	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	鍼灸免許を有する。鍼灸治療院で8年間の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床の現場における東洋医学的な身体・病態の見方、診察法について具体例を示し、2年次から始まる臨床実習に繋げる授業を行う。

授業の内容

回数	内容	備考
1	オリエンテーション、東洋医学の特徴	
2	生体物質 1 (精・気・血・津液)	授業内容の予習・復習
3	生体物質 2 (精・気・血・津液)、神	授業内容の予習・復習
4	蔵象 五臓 (肝・心)	授業内容の予習・復習
5	蔵象 五臓 (心包・脾・肺)	授業内容の予習・復習
6	蔵象 五臓 (腎)	授業内容の予習・復習
7	蔵象 六腑 (胆・小腸・胃)	授業内容の予習・復習
8	蔵象 六腑 (大腸・膀胱・三焦)	授業内容の予習・復習
9	陰陽学説・五行学説 陰陽の相互関係、人体・病・診断治療における陰陽について	授業内容の予習・復習
10	陰陽学説・五行学説 五行の分類・関係について	授業内容の予習・復習
11	陰陽学説・五行学説 五行色体表	授業内容の予習・復習
12	経絡	授業内容の予習・復習
13	病因・病機 (外因)	授業内容の予習・復習
14	病因・病機 (外因)	授業内容の予習・復習
15	病因・病機 (内因・不内外因)	授業内容の予習・復習
16	八綱弁証 (表証・裏証、寒証・熱証)	授業内容の予習・復習
17	八綱弁証 (虚証・実証)	授業内容の予習・復習
18	気血津液弁証 (気の病証、血の病証)	授業内容の予習・復習
19	前期試験解説、気血津液弁証 (血の病証、津液の病証)	授業内容の予習・復習
20	臟腑弁証 (肝・胆の弁証)	授業内容の予習・復習
21	臟腑弁証 (肝・胆の弁証、心・小腸の弁証)	授業内容の予習・復習
22	臟腑弁証 (心・小腸の弁証)	授業内容の予習・復習
23	臟腑弁証 (脾・胃の弁証)	授業内容の予習・復習
24	臟腑弁証 (脾・胃の弁証、肺・大腸の弁証)	授業内容の予習・復習
25	臟腑弁証 (肺・大腸の弁証、腎・膀胱の弁証)	授業内容の予習・復習
26	臟腑弁証 (腎・膀胱の弁証)	授業内容の予習・復習
27	経絡弁証 (十二経脈)	授業内容の予習・復習
28	経絡弁証 (十二経脈)	授業内容の予習・復習
29	経絡弁証 (奇経八脈)	授業内容の予習・復習
30	四診 (望診各項目、舌診)	授業内容の予習・復習
31	四診 (舌診)	授業内容の予習・復習
32	四診 (聞診各項目)	授業内容の予習・復習
33	四診 (問診の進め方、基本的問診事項)	授業内容の予習・復習
34	四診 (基本的問診事項)	授業内容の予習・復習

35	四診（その他の問診事項）	授業内容の予習・復習
36	四診（その他の問診事項）	授業内容の予習・復習
37	四診（反応、腹診、切経、脈状診）	授業内容の予習・復習
38	後期試験解説、四診（切経、脈状診）	授業内容の予習・復習
39	四診（脈状診、比較脈診）	授業内容の予習・復習
40	東洋医学の沿革	授業内容の予習・復習

その他の事項

【小テストについて】

前期・後期共に小テストは試験範囲・実施日を前もって予告します。

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	1	必要時間数	20
担当教員	西田 みずほ		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>鍼灸実技において、利用する鍼と灸に関する道具の名称や術式など、基礎的な知識を理解することは、実技授業を円滑に進めるためには必要な知識である。そのため、本授業では鍼灸の基礎知識を学習する。</p> <p>また、はり師きゅう師は、患者の情報を把握したうえで、その患者に鍼灸施術を施しても良いのかどうかを判断し、治療の際には患者の感受性や、適切な刺激量を見極める必要がある。一般的に鍼灸治療は禁忌や副作用が少ない施術と考えられているが、感染や重要臓器の障害、不快な症状の出現など、いくつかのリスクを伴う。そのため、本授業では、安全な施術を行えるように、鍼灸治療の適応や禁忌、リスクとその回避の方法等を学習する。</p>		
教科書	教科書執筆小委員会、はりきゅう理論、医道の日本社、2002年		

具体的な到達目標	
目標1	鍼の基礎知識 [各部名称・長さ・太さなど] を説明することができる。
目標2	刺鍼の方式 [撚鍼法・打鍼法・管鍼法] と刺鍼の術式 [押手・刺手・切皮など] を説明することができる。
目標3	特殊鍼法の特徴を説明することができる。
目標4	灸の基礎知識 [モグサ・線香] を説明することができる。
目標5	灸術 [有痕灸・無痕灸] を説明することができる。
目標6	鍼灸施術の刺激量や感受性を説明することができる。
目標7	鍼灸施術の適応症、禁忌を説明することができる。
目標8	リスク管理の基本と、鍼灸施術の過誤と副作用、感染症について説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	6/21 (金)		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。教員養成にて2年と、本校付属治療所にて3年間の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に施術するための基礎知識を教授する。

授業の内容

回数	内容	備考
1	オリエンテーション [シラバスの説明]、鍼術と灸術の定義、鍼灸治療の特徴	
2	毫鍼の各部名称、鍼の長さ・太さ、鍼尖の形状の種類と特徴	
3	刺鍼の方式と術式、古代九鍼	
4	刺鍼中の手技、灸の材料	
5	灸術の種類、特殊鍼法	
6	鍼灸の臨床応用、刺激量・適応症	
7	リスク管理の基本、鍼療法の過誤と副作用（前半）	
8	鍼療法の過誤と副作用（後半）灸療法の過誤と副作用	
9	灸療法の過誤と副作用	
10	試験返却と解説。過去問を解き、知識が定着しているかを確認する。	

その他の事項

授業は教科書と補足資料を使用して行います。本授業の内容は、実技授業とリンクする内容を含むため、復習は必ず行ってください。聞きなれない言葉が多いと思いますが、基礎の部分であるため、分からなければ気軽に質問をしてください。

専門分野

(鍼基礎実技) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019年度シラバス

授業概要					
学 科	第2鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	90	実施時間数	94
担当教員	前田 朱美				
授業形態	実 習	教 室	第1実技室		
授業目的	本授業は、臨床にてステンレス鍼と銀鍼を用いることができるようにすることが目的である。刺鍼の手順を理解し、鍼の基礎的な操作を学習する。				
教科書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第2版、医道の日本社、1992年				

具体的な到達目標	
目標1	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髪・爪）を整えることができる。
目標2	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確に行える。
目標3	安全に刺鍼することができるよう刺鍼の手順が正確に行える。
目標4	刺鍼に関わる動作（揉捻法・押手・切皮・刺入・抜鍼）が適切に行える。
目標5	指定された角度・深度に刺鍼することができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	55%			55%	
平常点	35%	算出方法	「その他の事項」に記載	35%	算出方法 「その他の事項」に記載
出席点	10%	算出方法	「その他の事項」に記載	10%	算出方法 「その他の事項」に記載
その他		算出方法			算出方法
試験日	8/30（金）、9/5（木）		1/10（金）、1/24（金）		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。免許取得後、往診での臨床経験2年、教員養成科在籍中の2年、本校付属治療所にて5年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸の臨床現場において必要な衛生操作とリスク管理、安全に施術を行うための基礎を中心とした実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション [シラバスの確認・道具の確認・道具の準備について]	
2	両手挿管、片手挿管の方法、刺鍼練習台を用いて片手挿管の練習	
3	反復練習 [第2回授業内容] 刺鍼の手順 [揉擦法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼]	
4	反復練習 [第3回授業内容]	
5	直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について	
6	反復練習 [第5回授業内容]	
7	直刺での刺鍼、せんねん刺法	
8	反復練習 [第7回授業内容]	
9	直刺での刺鍼、送り込み刺法・せんねん刺法	
10	反復練習 [第9回授業内容]	
11	人体への刺鍼手順、消毒手順、十七手技 [副刺激術、置鍼術、示指打法、刺鍼転向法]	
12	自身の体への刺鍼 [下腿]、反復練習 [第11回授業内容]	
13	自身の体への刺鍼 [下腿]、反復練習 [第11回授業内容]	
14	自身の体への刺鍼 [下腿]、斜刺での刺鍼	
15	自身の体への刺鍼 [下腿]、横刺での刺鍼	
16	片手挿管、刺鍼の手順、消毒手順の確認	
17	自身の身体への刺鍼 [下腿]、反復練習 [第14回・15回授業内容]	
18	試験	
19	試験	
20	試験結果を踏まえての基礎実技、十七手技 [単刺・雀啄術]	
21	他者の体への刺鍼 [下腿]、十七手技 [第20回の復習]	
22	他者の体への刺鍼 [下腿]、十七手技 [間歇術]	
23	他者の体への刺鍼 [腰部]、十七手技 [屋漏術]	
24	他者の体への刺鍼 [腰部]、十七手技 [振せん術]	
25	他者の体への刺鍼 [上・中背部]、十七手技 [旋擦術]	
26	他者の体への刺鍼 [上・中背部]、十七手技 [回旋術]	
27	他者の体への刺鍼 [上肢]、十七手技 [随鍼術]	
28	他者の体への刺鍼 [上肢]、十七手技 [内調術]	
29	他者の体への刺鍼 [腹部]、十七手技 [細指術]	
30	他者の体への刺鍼 [頸部]、十七手技 [管散術]	
31	他者の体への刺鍼 [頸部]、十七手技 [鍼尖転移法]	
32	他者の体への刺鍼 [背部]	
33	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼	
34	鍼と灸を合わせたの施術 [伏臥位：下肢]	

- 35 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位]
- 36 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位]
- 37 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位]
- 38 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
- 39 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
- 40 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
- 41 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
- 42 基礎練習の復習
- 43 試験
- 44 試験
- 45 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
- 46 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
- 47 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]

その他の事項

出席点 10% 1 回欠席につき 1 点減点

平常点 35%

[提出物 30%] 提出率：95～100% (30 点) 94～80% (25 点) 79～75% (20 点) 74～60% (15 点) 59～55% (10 点) 54%以下 (0 点)

[その他 5%] 以下の内容、3 回チェックにつき 1 点減点とする

- 実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。
- 身だしなみ：実習着のボタン、袖、上履きの踵、腕時計、装飾品、(指輪、ピアス、リストバンド等)、マニキュア、過度の化粧・香水、髪色、髪型(長髪は肩にかからないように整える)、ひげ(見苦しくないよう整える)、爪(衛生的に短く切る)
- 授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等

※実技試験の評価には、授業担当者以外の教員が補助に入る可能性がある。

※施鍼に関わる一連の動作は、授業の時間だけで習得できるものではありません。積極的に練習を行ってください。

専門分野

(灸基礎実技) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019年度シラバス

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	90
担当教員	西田 みずほ		
授業形態	実 習	教 室	第1実技室
授業目的	臨床において、広く行われている灸法である知熱灸と透熱灸を、施術において用いることができるようにすることが本授業の目的である。知熱灸と透熱灸という灸法の手順を理解し、灸の基礎的な操作を学習する。		
教科書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第2版、医道の日本社、1992年		

具体的な到達目標	
目標1	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髪・爪）を整えることができる。
目標2	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確にできること。
目標3	安全に施灸することができるよう施灸の手順が正確にできること。
目標4	散艾から指定された大きさの艾炷を作成することができること。
目標5	作成した艾炷に安全に着火することができ、線香を安全に扱えること。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	55%		55%		
平常点	35%	算出方法 「その他」に記載	35%	算出方法 「その他」に記載	
出席点	10%	算出方法 「その他」に記載	10%	算出方法 「その他」に記載	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	9/4（水）、9/6（金）		12/18（水）、12/20（金）		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。教員養成にて1年半と、本校付属治療所にて3年間の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に施灸するための基礎実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション [シラバスの確認・道具の確認・実技室の使い方・手洗い]	
2	道具の準備について、お灸の概要、艾炷を捻る指の動きの練習	
3	反復練習 [第2回の内容]	
4	米粒大艾炷の作成 [フェルト]	
5	米粒大艾炷の作成 [板]	
6	線香の扱い方、艾炷への着火、米粒大艾炷の作成 [板]	
7	反復練習 [第6回の内容]	
8	灸療リングの使い方、米粒大艾炷の作成 [紙]	
9	反復練習 [第8回の内容]	
10	米粒大艾炷の作成 [竹]	
11	もぐさ作り	
12	人体への施灸手順、知熱灸の方法 [板の上での練習]	
13	自身の体への施灸 [失眠]	
14	自身の体への施灸 [失眠・湧泉]	
15	自身の体への施灸 [下腿]	
16	他者の体への施灸 [失眠]、ベッド操作、タオルの扱い、声掛け	
17	他者の体への施灸 [失眠・湧泉]	
18	他者の体への施灸 [下腿]	
19	艾炷を捻る指の動き、艾炷の大きさ、着火など施灸動作一連の流れの確認	
20	試験	
21	試験	
22	半米粒大の艾炷作成 [板]	
23	透熱灸の方法 [板の上での練習]、自身の体への施灸 [失眠]	
24	自身の体への施灸 [失眠・湧泉]	
25	他者の体への施灸 [失眠]	
26	他者の体への施灸 [失眠・湧泉]	
27	隔物灸	
28	仰臥位と伏臥位の施灸、米粒大・半米粒大、知熱灸・透熱灸の使い分け	
29	他者の体への施灸 [腰部]	
30	他者の体への施灸 [背部]	
31	他者の体への施灸 [上肢]	
32	他者の体への施灸 [腹部]	
33	箱灸	
34	他者の体への施灸 [腰背部]	

35	他者の体への施灸 [腹部]
36	灸と鍼を合わせたの施術 [仰臥位]
37	灸と鍼を合わせたの施術 [仰臥位]
38	灸と鍼を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
39	灸と鍼を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
40	灸と鍼を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
41	試験
42	試験
43	基礎練習の復習
44	棒灸・台座灸
45	灸と鍼を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
46	灸と鍼を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
47	灸と鍼を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]

その他の事項

試験成績は、試験の合格を以って 55%を加算する。

出席点 10% 1 回欠席につき 1 点減点

平常点 35%

[提出物 30%] 提出率：100～90% (30 点) 89～80% (20 点) 79～70% (10 点) 69～60% (5 点) 59%以下 (0 点)

[その他 5%] 以下の内容、3 回チェックにつき 1 点減点とする

○実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

○身だしなみ：実習着のボタン、袖、上履きの踵、腕時計、装飾品、(指輪、ピアス、リストバンド等)、マニキュア、過度の化粧・香水、髪色、髪型(長髪は肩にかからないように整える)、ひげ(見苦しくないよう整える)、爪(衛生的に短く切る)

○授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等

- ・施灸に関わる一連の動作は、授業の時間だけで習得できるものではありません。積極的に練習を行ってください。
- ・実技試験には、授業担当者以外が入る可能性があります。

授業概要			
学 科	第2 鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	2 単位	必要時間数	30 時間
担当教員	高橋佑輔		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	医療の歴史はとても古く、その時代、国、地域によって様々な特色がある。 本授業を受けることで鍼灸の歴史だけでなく、医療人として知っておくべき医療全体の歴史を理解することができるようになる。		
教科書	東洋療法学校協会編 医療概論 医歯薬出版株式会社 (1991)		

具体的な到達目標	
目標 1	古代の医療の歴史を理解することができる
目標 2	西洋の医療の歴史について理解することができる
目標 3	東洋の医療の歴史について理解することができる
目標 4	日本の医療の歴史について理解することができる

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	筆記試験 (100 点満点) を実施、得点の 60% を持ち点とする		
平常点	10%	算出方法 発表して 10 点。発表をしない場合マイナス 45 点	算出方法
出席点	30%	算出方法 定期試験以外の授業の出席で 1 回につき 2 点	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	9/2		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容

回数	内容	備考
1	ガイダンス（ガイダンス、医療・医学とはなにかを知る）	
2	古代医療（神話と医療について学ぶ）	
3	古代医療（エジプト医学、バビロニア医学、新大陸の医学、ギリシア医学からローマの医学までを学ぶ）	
4	西洋医療史（キリストの医学、ルネサンス医学までを学ぶ）	
5	西洋医療史（近代医学の芽生えから 20 世紀の医学までを学ぶ）	
6	東洋医療史（古代インド医学・中国の医学を学ぶ）	
7	日本医療史 I（江戸時代までの医療について学ぶ）	
8	日本医療史 II（江戸時代以降の医療について学ぶ）	
9	日本の現代の医療制度	
10	日本昔話と医療（日本昔話と医療について学ぶ）	
11	京都医療史（京都の医療の歴史について学ぶ。祇園祭と医療の関係性について学ぶ。）	
12	生徒発表（各自興味のある医療の歴史について 1 人 15～20 分程度の発表を行う）	
13	生徒発表（各自興味のある医療の歴史について 1 人 15～20 分程度の発表を行う）	
14	生徒発表（各自興味のある医療の歴史について 1 人 15～20 分程度の発表を行う）	
15	定期試験返却、前期のまとめ（定期試験返却、前期のまとめ）	

その他の事項

教科書とスライドを使って授業をしていきます。

授業の後半にある発表がとても大事ですので、しっかり調べて発表してください。